

第3回全国防災連絡会議 報告

平成19年10月16日福井市の国際交流会館において「第3回全国防災連絡会議」が開催された。「全国防災連絡会議」は2005年札幌で「防災特別委員会委員と支部防災研究会などの会員」が全国から集まって第1回が試行され、2006年には東京において第33回技術士全国大会前日に、登録された防災専門家も参加して全国の防災関係者が集合した第2回が正式に開催され毎年開催が確認された。

本年は第34回技術士全国大会（北陸・福井）にあわせて、その前日に福井市で「第3回全国防災会議」を開催することとした。本年から会議を一般に公開するものとしてパネルディスカッション型式をとり、技術士全国大会案内にこの「全国防災連絡会議」の案内を掲載してもらうことにより一般参加者を募った。結果、参加者数は防災支援委員会メンバー、各支部防災委員会・防災研究会メンバーおよび技術士全国大会に参加した一般技術士の方々を含めて70名超となった。

会議は湯沢防災支援委員会事務局長の進行により、山口副委員長の開会挨拶で始まった。副委員長は防災支援委員会の目的および経緯から、委員会が日本技術士会の技術支援活動を通じた社会貢献活動の実践を行なっている活動内容を説明し、3回目を迎えた全国防災会議が技術士会防災関係者の全国的なネットワーク拡充に効果を発揮し関係者の交流が発展していくことを期待する旨を述べられた。次いで日本技術士会高橋修会長から全国防災連絡会議の実践活動を歓迎する旨の挨拶をいただいた。



日本技術士会高橋会長の挨拶



防災支援委員会山口副会長の開会挨拶

パネルディスカッションは木野井防災支援委員がコーディネーターを務め、参加ワーキンググループおよび支部パネラーの活動報告から始まった。ワーキンググループAの中嶋委員は地震危険度チェックリストと地域防災ハザードマップの取り組みについて発表した。ワーキンググループCの浅岡委員は防災Q&Aの作成とウェブ本の出版について発表した。北海道支部防災委員会の高宮委員長は、防災委員会が長中期計画を立案・推進し期別に成果を出版してきているなど実践活動を報告した。東北支部防災研究会齋藤委員長は地域に入りこんだ出前講座の実践活動、各団体と共催するシンポジウム、大学の講座への講師活動などを報告した。近畿支部防災研究会石川副会長は地域防災活動への参画と社会貢献活動について発

表した。中・四国支部防災委員会外山委員長は自治体との防災協定の実践や大規模災害に協働できる技術士の登録および防災教育の活動を報告した。九州支部防災委員会甲斐副委員長は既往災害のケーススタディへの取り組みについて発表した。



全国から 70 名超の参加者が集まった



支部防災委員会・研究会のパネラー



本部防災ワーキングのパネラー



防災支援委員会松井副会長の大会宣言

次いで行なわれたディスカッションでは、本部・支部間の連携、地域への入り込み方、活動内容を広めていく手法などについて話し合わせ、高橋日本技術士会会長や防災支援委員会に対する質問などもでて活発な意見交換となって、今後も全国防災連絡会議を継続し技術士の結集で防災・減災の輪を広げていくことが確認された。

最後にこの会議を集約して防災支援委員会松井副委員長が「全国防災連絡会議・福井宣言」を発表して会議を終了した。
(文責 木野井彰委員)

[全国防災連絡会議・福井宣言]

1. われわれ技術士は、夫々の経験・能力を生かして、地域の防災・減災活動を通じて、地域社会に貢献していきます。
2. 技術士会のネットワークを活用して、総合的な防災・減災活動を進め、社会に情報発信していきます。
3. 全国防災連絡会議の開催を継続し、技術士会の防災ネットワークの拡大と連携を進めます。